2026年9月市議会（令和8年第2回定例会）報告



国分寺市議会議員
高瀬（たかせ）かおる

1緑豊かなまちづくりについて：コンセプトを持った緑の空間づくりを／防災の観点から緑の確保を／植生調査の実施を

2防災について：近隣自治体との連携強化を／ペットの避難／災害時の生活用水の確保について

3高齢者福祉について：ケアマネジャー／地域包括支援センターについて

4国分寺市住宅マスタープランの改定について：改定の方向性／重点施策

5国分寺市旧庁舎用地利活用事業について：民間活用事業／災害時の対応／緑の配置



国分寺市議会議員
小坂（こさか）まさ代

1学校図書館と市立図書館について：学校図書館の資料費／障害のある子どもの学校図書館利用／学校図書館と市立図書館との連携／ブックスタート事業から図書館利用につなげる取組を／並木図書館休館中の利用者支援／より親しまれる恋ヶ窪図書館に向けて

2子どもの遊びと学びを支える取組について：夏休み中の子どもの居場所／国分寺市放課後子どもプラン／こくぶんじ青空ひろばの充実／教育バウチャーと子どもの体験機会を広げる取組



国分寺市議会議員
松岡（まつおか）まり

1妊娠期からの健康づくりを応援する仕組みを：オンラインでのメンタルヘルス／体づくりをサポートする仕組みを／母子健康手帳のブラッシュアップを

2より多様な市民が利用できるひかりプラザへ：フリースペースの設置を／男女平等推進センターを効果的に活用するために／ひかりひろばと一時預かり事業

3配慮を要する子どもたちへ寄り添った支援を：ことばの教室

高齢者介護の支援充実を

来年度の介護保険事業計画策定に向けた調査等では、ケアマネジャーが本来の業務の範囲を超えた利用者の対応に追われていることや、地域包括支援センターでは、8050問題や経済的困窮、住宅問題など高齢者福祉という枠組みでは対応できない難しいケースが増えていることが明らかになりました。認知症や頼れる身寄りのない高齢者への支援体制の強化が求められる今、人材確保は大きな課題です。市にはこうした現場の声を次期計画に丁寧に反映し、支援体制の充実につなげるよう求めました。

（高瀬かおる）

http://takase.seikatsusha.me/

「やってみたい」をあきらめないために

国分寺市では2027年4月から、就学援助・生活保護受給世帯の中学3年生を対象に、学習塾などの費用に使えるクーポン（教育バウチャー）を試行する予定です。フリースクールなど多様な学びの場も対象とすることや、子どもに寄り添う相談支援を提案しました。さらに、家庭の経済状況によって、スポーツや文化、自然体験の機会にも格差があることを指摘。どの子も「やってみたい」をあきらめずに済むよう、体験活動への支援拡充も求めました。

（小坂まさ代）

http://kosaka.seikatsusha.me/

妊娠中の栄養を考える、初期からの身体づくりを

国内では低出生体重児の割合が1980年代から増加し、約9.5%で高止まりしています。10代から40代女性のやせ比率の増加など、妊娠前にすでにエネルギー摂取不足の食生活を送っていることが関連している可能性があり、貧血状態にある妊婦や産後回復が遅い産婦が多いという専門家の指摘もあります。妊婦の低栄養や他市の事例を取り上げ、市の認識と取り組みを質問しました。すべてのいのちとその始まりを大切にする視点を、今後も求めていきます。

（松岡まり）

http://matsuoka.seikatsusha.me/

2つの陳情が採決されました

1.有機フッ素化合物（PFAS）から健康を守るために、血液検査に市の補助を求める陳情

賛成多数で採択。2026年7月のWHOの文書では、1万種を超えるといわれるPFASのうち、本格的に検証するべき18種類とその健康影響の項目がようやく選定されました。因果関係が疑われている疾病などとの科学的な関連性はまだまだ全容解明に至っておらず、健康への影響が懸念されています。国分寺市民が、自らの血中濃度を知りたいと願うのは当然の権利です。

2.すべての中学生が温かい給食を食べられる仕組みの検討を求める陳情

賛否が同数となり、議長判断により不採択。今年度より市内全中学校では保温食缶方式へ移行し、温かい給食が実現。喜びの声もお聞きします。この方式を安定させることは重要ですが、子どもたちを取り巻く食環境が大きく変化する現代において、将来の在り方を中長期的に検討し、歩みを止めないこともまた大切です。

厚生文教委員会ではどちらも多くの調査結果を共有し、1年以上の長きに渡って審査されました。生活者ネットワークはどちらも賛成しました。改めて、市民の声をあげることの重要性を実感した期間です。市の今後の取り組みをチェックしていきましょう。

（松岡まり）

予算・決算特別委員会より

税収は過去最大 それでも厳しい市の財政

令和7（2025）年度の国分寺市一般会計決算は、歳入約636億5千万円、歳出約617億6千万円。市税収入は前年度より約11億7千万円増え、過去最大の約264億円となりました。

一方、財政のゆとりを示す「経常収支比率」は95.8%。毎年入るお金の多くが、人件費や福祉などの経常的な支出に充てられ、新しい事業に使える財源は限られています。また、ふるさと納税による市税の流出も年々増加し、10億円を超えています。

さらに令和8（2026）年度9月の補正予算では、黒鐘公園など3か所の公園・緑地の用地取得に見込んでいた国・東京都の補助金が、約3億4千万円減額となったことが明らかに。要望額に対する交付率は国が約22%、都が約24%にとどまり、市は約2億円の一般財源と約1億4千万円の市債で補うことになりました。

市長は「補助金がなくても本当にやるべきものなのか」という視点が今後必要と答弁。市債の残高が増え、金利も上昇する中、補助金ありきではなく、必要な事業を見極め、将来負担も考えた財政運営が求められます。

（小坂まさ代）



災害時のペット避難どうする？



避難所での環境変化や別室での飼育が難しいことから、ペットを理由とした車中泊や自宅に留まる「逃げ遅れ」や「孤立」は人命に関わる問題です。ペットの避難は愛護にとどまらず、人命を守る防災対策として考える必要があります。市では同行避難を前提に、人と動物の居住スペースを分ける対応を進めていますが、衛生面や鳴き声、アレルギーをお持ちの方への配慮など課題も多くあります。行政だけでは対応しきれないため、飼い主はもとより、市民や動物病院、保護団体やペットショップなど平常時からペットの健康管理や飼育相談を担っている民間事業者や専門家が対話を重ね、地域の特性に応じた対策が重要です。最近では、民間事業者が連携し、災害時にペットの一時預かりやケアを行う取組が広がりつつあるそうです。

（高瀬かおる）



キャリーバックはいつもリビングにあるニャー